

空襲下に於ける幼児の取扱ひに就て

内藤 壽七 郎

敵機の意圖に乗らぬこと

北九州や九州西部更に山陰地方に敵機の來襲は漸やく活潑になつて來た。帝都は一昨年四月以來敵機の來襲を受けてゐない。尤もあの當時に今までは設備の上でも亦心構の上でも比較にならぬ位の差があるとは思ふが又一方來襲する方でも手を替へ品を代へて來るに相違ない。焼夷彈や爆彈による物に人々の損傷の他に、精神的の被害を狙つて毎夜毎夜睡眠障碍の目的で來襲して國民をして疲勞困憊の極意を喪失せしめん等の企をなすであらう。空襲下に於て、家を守り、己の身を守り更に其の上に乳幼児の直接の保護に當る可き母親及び保育者等は餘程普段から準備即ち物に設備し、更に心の用意を怠つてはならないのである。

完全なる待避は疎開である

疎開こそ最も完全なる空襲対策に云ふ可きである。前述の如く女性の中で最も最初に、而も最も容易に疲勞困憊に陥り易いのは自分の身體の他に更に多數の子女を保護しなければならぬ母親であらう。前大戰の折り、ベルダン激

戰の後愛兒や、夫を失つた獨逸の母親や、妻達、ベルダン要塞の名を恐怖に滿ちた面持で嘔やき交し出した時に既に獨逸は破れたのであるとも云はれる。斯るこゝのないやう、空襲警報下には、身輕に、防空活動が出来て、空襲警報をさあこいさばかりに待ち構へるこゝの出來る人達のみが危険區域には踏み止つておる可きである。學童の疎開も緒に着いた現在、乳幼児を有する母性の強力なる疎開が先づ第一に考慮される可き考へる。最も安全且つ國家的に見て要望されるこゝは事前に於ける疎開である。疎開地に於てはそれぞれの氣候、風土に適して子供達の生活は組み立てられなければならないが、之のこゝは茲には觸れないでおく。

現地の待避

現地に於て敵機の來襲に會つた場合さうするか。眼目として幼児は防空活動は全く不可能であるので保護一點張りであり、而も恐怖心のために母親や、其他の保護者達の防空活動を阻害せしめないやうに處理されなければならない

い。

隣組單位の幼児待避に就て

保育所、幼稚園等でも空襲警報が発令された場合は、幼児は大凡そ各自の家庭に戻されて居る故、家庭に於て各々待避させることとなる理である。

隣組單位の待避の必要なる理由

隣組中に幼児取扱ひに慣れた人が若し居る場合には可能である。防火に對して機敏なそして充分な活動をする場合、幼児を抱へた母親程氣の毒なものはない。四―五ヶ月頃までの乳兒なら却つて扱ひ易いが、人見知りを覺えたり、更に母親の後追いなぎをする様な子供であるに全く仕末に困るのである。泣き叫ぶ吾子を後に一人置いては、吾國の女性の子供に對して情が厚いのであるしまして母もなれば機敏な活動が出来難いに察せられるのである。最初の三十秒間に於ける消火活動が要求せらるゝ場合、幼児が居つたのでは甚だ不都合である。消火の命令一下直ちに飛び出せる様に心の準備を整へさせてやらねばならない。茲に幼児の隣組單位の待避に云ふことの意義を重要さが存するのである。

待避の實施

幼児の隣組單位の待避の實施上如何なる要素が考へられるか。第一隣組に於て比較的大きなそして、現在の資材狀

態に於て能ふ限り完全に作つた、例へば横穴式、或は掩蓋が有つて、小さな子供でも危くない様に下だつたり上つたりするこの出来るゆるやかな石段の如き昇降設備のあるもの。そして中には壕の兩側避に沿つた横に長い板張りの腰掛をおき子供達を疲れしめないやうにして、保護者は中で子供達に目を配り易いやうに中央に位置をさる。壕の中に入つたら怖げ慄い乍ら不安の數刻を過すに云ふのでなく、防空壕の中に入つたら繪本位見せるこの出来るだけ子供の注意を壕の外にそらさないやうに取扱はねばならない。そうでないに實例もある如く、空襲後までも精神の異狀興奮狀態が長く續き、時には、夜驚症等の障礙を残すに至る。夜驚症は御承知の如く、神經質の子供殊に四―五歳以上位の年齢に現はれるもので、突然夜中に飛び起きて怖いゝ、叫んだり、高度のなるに寢室を飛び廻つたりする。そして翌朝はけろりまして全く、夜中のことを覺えてゐないに云ふやうなものである。こんな風に子供がなつてしまつたのでは甚だ困る。子供の健康上は勿論のこと、この爲には家人は毎夜睡眠を防げられてしまふに云ふことなる。

恐怖心の防止

子供達には出来るだけ恐怖心を起させないやうにした。吾々も幼児時代汽車の通過するのを眺めては喜んで遊

んだが、其の時機關車の警笛が怖いので耳を指で塞いでるたこみを思ひ出すし又、雷の時も子供はよく耳を塞いでしまふ。即ち大音響による耳からの刺激に非常に敏感なのである。敵の投下する爆弾の破裂の大音響に對して幼児は殊に恐怖を感じ易いと思はれる。故に先づ恐怖心を去る一方法として敵機來襲中、殊に防空砲火の音の旺な間は必ず耳に固い綿栓を施すこむが必要である。

そして一方待避壕内に於ては繪本等を見せる位の餘裕ある心構へが保護者に欲しい。又敵機が上空にゐない時は皆の耳の栓をもらせて、お話しをしてやるやうなこむもよい。勇氣のある人の話なさしてやれば子供達は恐怖に慄くこむもよい。いまに爆弾が下るか、直撃弾でも落ちて來るのではあるまいかなぎみ子供と一緒に心配してゐるやうでは敵の思ふ壺であつて負けてゐる。子供達を爆弾の爲に身體的を防ぐばかりでなく、其の恐怖即精神的破壊からも防いでやらねばならない。茲に普段幼兒を扱ひ慣れた人達の技術の發揮さる可き所があると思ふ。

身體的の方面については、食物の與へ方、及び夜であれば睡眠のせらせ方、冷へ込みの防止等が問題となる。

隣組單位に子供を集めるこむは夜間に空襲が始つた時は一寸困難である。此の困難を除去する意味から、子供を母

親達がつれて集るこむれば餘程足場のよい、そして皆の家から好都合の場所に、防空壕がなければならぬ。その點晝間であれば保護者が各家庭を廻つて子供を集め近所の子供達が數人手をつないで集るこむよい。この時も決して、早くくこむか、それつこむ云ふやうな慌しさは禁物、迅速ではあるが心靜かにしなければ子供達に壕に入る前から怖けてしまふ。又晝間から始つて引きつゝいて夜になるこむもあらう。晝間はいよこむしても夜になるこむ心細く、殊に睡氣を催すこむ其が一層著しくなつて來る。併し又一旦眠らせるこむが出来たこむしても、眠る前に恐怖の爲に興奮して兒童達は又往々にして恐ろしい夢のために泣いて目覺めるこむもあるから寢つかせる時は餘程心を落着けさせねばならぬ。そうしないこむ睡眠不足の爲に、胃腸障碍や免疫力の著しい低下を來すからである。空襲は一日一回こむは限らない、連續して、時を選ばずに來るこむを考へておくべきで、毎日毎日睡眠不足してゐたのでは駄目である。乳幼児にこむつて睡眠時間が如何に多きを要するか。乳兒時代、二十—十六時幼兒時代十六—十二(平均十四時間)である。而も之は戸外によく遊ぶこむにより、深い睡眠をこむつた場合のこむであるこむを忘れてはならない。深い、そして充分なる睡眠こそ健康の基である。空爆により直接の肉體的の損傷を蒙らないでも、睡眠不足が原因で其後に病氣になるこむ

があれば之も空爆の被害云はなければならぬ。
冷へ込みに就て

睡眠中は體温下降を防止する作用が低下する。これが寢冷への原因である。平時でも子供が病氣をするのはこの寢冷へ、即ち明け方に下降する氣温に對して、體温降下防止作用が不完全であることに起因する。これから秋季更に冬季となるにつれてこの冷へ込みの防止には餘程注意する必要がある。このためには、一番冷へ易い足殊に膝から下を包むことで、私はこの爲にはズボンをはいた上から更に兵營に於ける寢具の如く膝から下をすつぽりミ封筒式に包むとして膝の所で、紐で結びつけておく必要があると思ふ。
食物を與へる場合量を過さないこと

又恐怖のため食飲を忘失してゐるこことがある。夜更けまで壕内で起きてゐるこするこ、空腹になるのであり、又體温の保持も困難なるので、夕食後四時間以上を經過したる幼児には食べ物を與へる必要がある。そして充分體温の發生した所で、足をつゝんで温める割合に深い眠りをこるこが出来る。若し事情がゆるせば、ゆたんぼを携帶する。之を飲料にしても體が温りよく眠れるし又足の方をも温めてやれるし好都合である。飲料水は餘程多く準備しておいてよろしい。人間は興奮した時や其の後は必ず渴を覺えるものである。

便器

北九州の場合でもやはり排泄には餘程困つて、用便の爲一寸壕を出た爲に負傷したこ云ふ例もある。殊に緊張するミ尿の回数が多くなるのは吾々成人でも試験の前にやたらに便所に行く人のあるのを見て解る。必ず、壺、ばけつ、桶類を一―二ヶ用意しておくこ。

以上は幼児を取扱ひ慣れた人が隣組單位に幼児を預るこ云ふこを前提にして私の考へを述べたので皆様方の御經驗や、御工夫等によりもつこ立派なものがあらはれるこ思ひますが要は幼児を恐怖より守り、更に其の後に起る可き疾病より守るこ云ふ點にあらうかと思ひます。

謹告

本誌八月號は休刊致し、九月に於て八、九兩號を合冊発行いたしました。

昭和十九年九月

日本幼稚園協會